

講義名	平和とコミュニティ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	水曜日	代表時限	3時限
配当年次	3		
必修・選択	選択		
区分・科目	コモنز専門科目 コミュニティデザイン		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 玉城 毅	指定なし

1. 授業概要	<p>本講義では、さまざまな「暴力」現象を検討することによって「平和」の条件を考える。人はつながりの中で生きる存在であるが、しばしばつながりを自ら断ってしまう。「平和」を破壊する「暴力」に着目し、暴力の歴史・実態・メカニズムを捉える。対象としては、家族などの小規模な集団における暴力（DV）から、国家レベルの暴力（戦争）までを取り上げる。講義の後半では、暴力低減の可能性を考察した先学に学ぶ。</p> <p>各回の授業の最後にmanabaからコメントペーパーを提出して頂きます。これを積み上げていって、中間レポートと最終レポートの作成に活用することを勧めます。</p>
2. 到達目標（ディプロマ・ポリシーとの関係を踏まえたもの）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の負の側面としての暴力について認識を深める。 2) 暴力を乗り越えようとした先学の思想に学ぶ。 3) 平和と暴力の問題を自分の問題として考える。
3. 授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：平和と暴力への視点 2 人類史における共生戦略と争い 3 霊長類の暴力：サルの子殺し 4 性と暴力：ドメスティック・ヴァイオレンス 5 殺の問題：自死と他殺 6 共同体と暴力：スケープゴート論 7 近代国家と戦争：近代日本の戦争 8 近代国家の形成：沖縄近代史から 9 大規模戦争：ホロコーストとナチズム 10 戦争の記憶：オキナワ・ヒロシマと平和 11 暴力の根源：エゴイズムとニヒリズム 12 暴力への抵抗可能性：ガルトウングの平和論 13 社会的秩序と暴力：境界性の視点から 14 他者との出会い：他者の発見と共生 15 まとめ：暴力からの転回可能性
4. 事前・事後学修	<ol style="list-style-type: none"> 1) 下記に挙げた参考書を読み、暴力・戦争・共生についての認識を深める。これに加えて、顕在的あるいは潜在的な暴力を扱った映画をみることを勧める（事前学修）。 2) 暴力現象の広がりを見据えた上で、自分の関心の在処を探る（事前学修）。 3) これらを踏まえて講義中に紹介した本を読む（事後学修）。
5. テキスト	授業ごとに講義資料を配布（manaba）
6. 参考書	<p>加藤陽子2009『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社 ガルトウング、ヨハン他2003『ガルトウングの平和学入門』法律文化社 フーコー、ミッシェル1977『監獄の誕生：監視と処罰』新潮社 フランクル、ヴィクトール1993『それでも人生にイエスと言う』春秋社。 フランクル、ヴィクトール1998『苦悩の存在論—ニヒリズムの根本問題』新泉社。</p>
7. 成績評価方法	通常レポート（30%）と最終レポート（70%）によって評価する。
8. 関連科目	コミュニティ論、文化人類学
10. 特に関連するディプロマ・ポリシーの項目	<ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な価値観が共存する社会状況やその背景を理解する力。 (6) 既成の考え方にとらわれず、新たな価値をつくり出す創造力、及びその価値の実現へと邁進できるチャレンジの力。